

看護分野における 遠隔教育導入モデル開発事業



株式
会社

穴吹カレッジサービス

事業目的

情報通信技術(ICT)の発達に伴う対面コミュニケーションの機会減少

新型コロナウイルス感染症の影響による臨地実習の短縮・中止

看護学生のコミュニケーション力の低下懸念

VR会議システムを活用した**疑似対面型グループワーク環境**を実現

看護学生の**コミュニケーション力の向上**

先端技術の活用方法



【使用機器】

- ・VR会議システム (株)Synamon開発「NEUTRANS (ニュートランス)」
- ・VRゴーグル (スタンドアローン型)



【使用方法】

- ・バーチャル空間にアバターとなり入室
- ・空間内の移動や音声会話が可能
- ・資料、動画の閲覧可能
- ・身振り、手振り等動作が反映される



© Synamon Inc

◆アバターを有効活用し、コミュニケーション力を向上

リアルではない自分 (=アバター) が発言するため、グループワークでの発言やプレゼンテーションが苦手な人には恥ずかしさがなくなる (少なくなる) という利点がある。

◆非言語・準言語コミュニケーションを鍛えることができる

学生同士がアバターで看護師役や患者役、患者の家族役等を演じ、演劇のように決められた台本に従い、言葉をやり取りすることで非言語・準言語コミュニケーションの重要性を理解した上で、鍛えることができる。

◆バーチャル空間の様子をライブ視聴できる

グループメンバーとして加わらなくてもバーチャル空間の様子をライブ視聴できるため、メンバー以外の学生がグループワークを客観視できたり、教員が評価することが可能となる。

効果検証方法

実証講座 の対象者	【令和4年度】香川県内 専門学校 看護学科学生（1か所） 【令和5年度】他県 専門学校 看護学科学生（3か所程度）
授業時間	180分（90分×2コマ）
実施手法	①対面型（リアル） ②現行の遠隔（Zoom等） ③本事業で開発する疑似対面型 ①②③でそれぞれグループワークを行い、比較検証する。
想定される 受講者数	【令和4年度】20名×1か所 【令和5年度】20名×3か所程度

事業スケジュール

令和3年度

■ アンケート調査

調査対象

- ・看護系専門学校
- ・看護系大学

調査内容

- ・コミュニケーション教育の課題
- ・実習実態やニーズ調査

■ ヒアリング・視察調査

調査対象

- ・病院
- ・看護系専門学校

調査内容

- ・コミュニケーション教育の課題
- ・教育、業界実態やニーズ調査

■ 委員会開催

■ 報告と成果物

令和4年度

■ 遠隔教育導入モデル開発

- ・スキル・能力を体系的に整理

■ 実証授業の開催

- ・VRを取り入れた
実証授業開催
- ・①対面型
②現行の遠隔
③疑似対面型
3つの授業比較

■ 授業評価分析

- ・アンケート、評価シート分析
- ・導入、非導入の比較分析

■ 委員会開催

■ 報告と成果物

令和5年度

■ 遠隔教育導入モデル開発

- ・開発モデルのブラッシュアップ

■ 教員向け指導書作成

看護師養成校教員向けの
指導書を作成

■ 実証授業の開催

- ・VRを取り入れた実証授業開催

■ 授業評価分析

アンケート、評価シート分析
導入、非導入比較分析

■ 委員会開催

■ 報告と成果物

事業終了後の活用方法

- ・ 開発モデル、導入事例はWeb公開し、成功事例紹介及び導入マニュアルを掲載する。
- ・ 全国普及に向けた普及冊子を作成し、事業終了後の普及活動に役立てる。

